

# 山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

## 平成18年 住職年頭挨拶

→高崎市城南小学校で坐  
禅指導と法話を行う住職



## 謹賀新年

年頭にあたり仁叟寺ご本尊お釈迦様、そして諸佛のご加護が皆様方に限りなく降り注ぎますことを念じます。

昨年ためいきは災害、犯罪、不正、さんじょう正に溜息が出るような我国の惨状で  
ありました。私達は次の世代に何を伝え遺していかなくてはならないのでしょうか？この国の将来は？歴史あるこの国の伝統や文化は？

こんめい混迷を極め、ぶんれつほうかい分裂崩壊に瀕している世の中の人心を救えるのは、唯一つ釈迦の佛法をおいて他はあり得ない。ご先祖、親と  
えん つな子、家族そして縁に繋がるみんなを大切に、そして自分自身を大切に。全ての生けとし生きるものに慈悲と優しさを。争いを避けて平和を。差別をなくして平等を。すなわち、諸々の善を行じて悪行をなさず。人として最も基本であり大切であるこの佛教の精神を持ち続けることこそが世間と生きる人々を救う唯一の光明と信じています。

## 平成18年 年回表

一周忌	平成十七年	二十三回忌	昭和五十九年
三回忌	平成十六年	二十七回忌	昭和五十五年
七回忌	平成十二年	三十三回忌	昭和四十九年
十三回忌	平成六年	五十回忌	昭和三十二年
十七回忌	平成二年	百回忌	明治四十年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。  
※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。

### 平成18年

### 仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱
- 1/3~1/7 年始挨拶
- 2/3 大節分会
- 2/15 涅槃会
- 3/12 大般若会/大施食会法要
- 3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 4/8 降誕会(花祭り)
- 7/13~7/16 京浜地区盂蘭盆会
- 7月下旬 子供禅の集い
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- 10月中旬 研修旅行
- 12/8 成道会
- 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日 書道教室
- 毎週水曜日 定例坐禅会
- 隔週水曜日 華道教室・梅花講稽古

# しんぼちぞうえいこうじかんりょう 新墓地造営工事完了

当寺の新墓地の拡張と新規の墓地の分譲を行います。

竹林の北側を新たに墓地として、昨年11月より富岡市のタルヤ建設㈱に依頼し、造成工事を進めてまいりました。新規墓地は54区画です。また旧墓地の分譲墓地もまだ空きがございます。ご兄弟やご親戚、知人の方々などにお話しをいただき、この機会に是非お求め下さい。詳細などお問い合わせは当寺までお願いいたします。



←作業風景

- 仁叟寺新規墓地分譲区画●
- 6尺×6尺区画 34区画
- 6尺×9尺区画 17区画
- 6尺×9尺区画 3区画

## 寺誌編纂室通信-15-

昨年10月4日に当寺の千手観音

さまが上毛新聞紙上に掲載されました。以前、当寺報でも紹介したことのある観音さまですが、その胎内に羊太夫の護持佛が納められているという近世の古文書があり、また本間紀男先生主宰の佛教造形研究所（東京都あきる野市）の調査によりますと渡来佛である可能性も高いとのことでした。

この千手観音様は元々は八束山観音寺の本尊様で近年まで秘佛でありましたが、現在は新上州観音霊場、南毛観音霊場、西毛坂東観音霊場の札所のほか吉井町重要文化財にも指定されております。本堂脇の観音堂にて同じく吉井町指定重要文化財である六体の脇侍佛と一体の前佛と共に安置されております。

歴史の浪漫を感じさせる話であり、これからより詳細な研究や調査の結果が待たれます。

←上毛新聞社会面にて掲載（昨年十月四日付け）

渡来人と関連？

面長の顔に大陸風衣装



## 仁叟寺探索-13-

今回の仁叟寺探索は、

除夜会でもお馴染みの当寺大梵鐘を紹介いたします。

この大梵鐘は江戸初期の天和3年(1683)9月に铸造されました。作者は「佛大工椎名伊豫守藤原吉廣」であり、施主として「岩崎住人鈴木氏七平吉次」とあります。藤原吉廣は江戸幕府の铸造師として高名であり、大東亜戦争ではその格により供出が免れました。群馬県内では17世紀中の梵鐘は稀であり、当梵鐘も吉井町重要文化財に指定されています。平成11年まで現役で活躍していましたが、早稲田大学外園教授の調査の際「本来博物館で展示されるべき梵鐘」とのことで、現在は新たに铸造した梵鐘が鐘楼堂に安置されております。

大梵鐘の材質は青銅製で、大きさは駒の爪の外側で計った直径を2.20尺(約66.7㌘)とし、「駒の爪」下部から笠形の上部までを丁度3.0尺(約91.0㌘)にし、龍頭の長さは8.0寸(約24.2㌘)となっております。また、四



↑現在は本堂脇に安置されている大梵鐘（吉井町重要文化財）

とくべつきこう そうじじさいじょうじさんばいりょこう

## 【特別寄稿】 總持寺最乗寺参拝旅行に参加して

### 吉田宇四郎、節子夫妻



↑ 大本山總持寺での諸堂拝観

この度、仁叟寺様のご尽力で73名全員が無事に参拝できましたこと、感謝しております。雨の予報で心配しましたが、時々薄日の差す天気となりました。

早朝の出発に先立ち仁叟寺本尊様に無事に行ってお参りをし、午前10時頃大本山總持寺に到着。先づ三班に分かれて参拝と諸堂拝観をさせていただきました。



↑ 吉田夫妻

諸堂と長廊下は鏡の様に磨かれて、身の引き締まる思いがしました。また諸堂拝観して、その壯観さに驚かされました。昼食は心を込めて作られた本格的精進料理をお作法に従いおいしく頂きました。感謝の気持ちでいっぱいです。高崎市の向雲寺のご方丈様や總持寺の皆様方に見送られて大本山を後にして、次なる目的地である大雄山最乗寺に向かいました。

途中に雨が降り、境内山林の老杉が茂り靈氣に包まれて心が洗われる思いがしました。御祈禱所までの長い階段を登り大雄山様の御祈禱を受けとても有難かったです。本堂で参拝をして書院で山主様のご法話を拝聴して心の栄養を賜った事は、これからの人生の良き道標となる事と思います。記念撮影をして帰路へと着きました。

環状八号線で渋滞に巻き込まれて予定より一時間半おくれて無事に仁叟寺に到着。東堂夫妻様のお出迎えを受けて感謝の気持ちでいっぱいです。また総代様には飲み物を頂き、皆様には温かいお心遣いを頂きました。誠にありがとうございました。

大雄山最乗寺での記念撮影→



## 坐禅教室と法話講演会

去る11月28日（月）に高崎市立城南小学校において坐禅教室と法話講演会を行いました。同小学校P.T.A.が主催した同教室は、当寺が夏に行っている子供禅の集いのご縁となり開催されました。

坐禅教室は同小学校3～6年生と保護者教師など約200名が参加し、持参した座蒲団の上で坐禅を組みました。坐禅教室が終了した後は、保護者を対象とした法話講演会を行いました。最近、様々な場面で宗教色や



↑ 精神を集中して坐禅を組む

## 総代長新年挨拶

### 明けまして、おめでとうございます

檀信徒の皆様には、ご家族お揃いで新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。お蔭様で旧年中は、役員並びに檀信徒の皆様にご一方ならぬご尽力を賜り、除夜会・二年詣を始めとする恒例の山内行事は、年を重ねる毎に隆盛を極め、誠に有難く深謝いたします。

また昨年中は仁叟寺の歴史と伝統を誇る数々の寺宝が、改めて吉井町の文化財として再指定されると共に、千手観音を始め貴重な仏像が多々発見され、仁叟寺のみならず私たち檀信徒にとりまして、本当に意義深くまた悦ばしい年でもありました。その他、兼ねてから懸案の仁叟寺誌もいよいよ発行の運びとなり、かつまた大本山の参拝研修旅行も総勢73名、大型バス2台を連ねて和気藹々。気宇壮大な大本山總持寺では、瑩山禅師のご遺徳を偲び、余りにも広大な大伽藍の威容に驚愕賛嘆。杉の巨木が鬱蒼と林立する大雄山最乗寺では、山主様の温容と聲咳に接し、深山幽谷の靈氣に俗世の心を洗われ、楽しくも充実した仲秋の終日を満喫することができました。

しかしながら、新年を迎え、紛然とした国際状況はともかく、経済大国と言われる日本の現状を顧みたま時、政治・経済・社会など様々な歪から生ずる社会問題は枚挙に暇がなく、正に修羅の世界を垣間見る思いがして慄然たるものがあります。残念ながら、こうした社会現象も、公正公平な生活行動様式いわば節度を失った、無節操、無責任な世相の投影なのかもしれません。かつて江戸時代中期の儒学者、伊藤東涯は「人は節度を失った時、転落する」と力説し、オーストリアの偉大な作家シュティフターも「没落する民族が先ず最初に失うのが礼節であ

る」と断言しております。

今こそ私たちは、1400年余りにも亘り、理非善悪や慈悲平等、平和の精神を説いて、日本人の道徳観や人間形成に大きな役割を果たして来た仏法に思いをいたし、無限の欲望から生ずる煩悩を脱して、悟りに達する為の生き方、在り方を示した八正道「正見（正しい人生や社会の見方）正思（正しい思考）正語（嘘、悪口、中傷、無駄口を言わない）正業（正しい行為）正命（正しい生活）正精進（正しい努力と勇氣）正念（自他の立場について正しい反省と自覚を常に持つこと）正定（正しい精神の集中統一）」に基づき、五戒（虚言、殺生、窃盗、飲酒、邪淫）を遵奉することによって、極端に走る事のない中道を実践して、節度ある社会生活の実現に努めなくてはならないと思います。

とまれ今年がまた、檀信徒の皆様にとって、良い年でありますようご多幸ご健勝を祈念し、新春の挨拶といたします。

平成18年元旦

仁叟寺総代人一同

(文責、総代長 金子 明)



### 仁叟寺総代人一同

金子 明	森 祐夫	篠崎和男
関口益雄	春山 繁	井上正俊
矢島正義	宮澤二三夫	新井徳衛

## 行雲流水（編集後記）

明けましておめでとうございます。寺誌の完成が予定よりかなり遅くなっております。多くの方々にご迷惑をお掛けしているのも充分承知しております。仁叟寺五百年

の伝統に恥じる事のない、良い寺誌を編纂するため、あと少しのお時間をいただきたく、茲にお願い申し上げます。

編集人 副住職 渡辺龍道

